

第10回外濠市民塾 外濠浚渫工事見学

実施レポート

日時：2019年8月7日(水)

8:30～

場所：法政大学大内山校舎

- 【1】実施概要
- 【2】事前工事
- 【3】外濠浚渫工事見学
- 【4】質疑・振り返り
- 【5】アンケート結果
- 【6】所感

【1】実施概要

実施要項

日時：2019年8月7日（水）8:30～13:00

場所：外濠公園～小石川橋付近

プログラム： 開場：8:00 開始：8:30

- 1) 事前説明
- 2) 外濠浚渫工事見学
- 3) 質疑・振り返り

主催：外濠市民塾実行委員会

運営協力：法政大学エコ地域デザイン研究センター／法政大学江戸東京センター／東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室／日本大学理工学部まちづくり工学科歴史まちづくり研究室／中央大学理工学部都市環境学科河川・水文研究室／大日本印刷株式会社ソーシャルイノベーション研究所／新宿区立四谷図書館

参加状況

セミナー

参加者：61名

（一般参加：45名、実行委員・ファシリテータ：16名）

スタッフ・協力

外濠市民塾実行委員会

委員長 陣内秀信（法政大学）
福井恒明（法政大学）
小松妙子（マヌ都市建築設計事務所）
金谷匡高（法政大学）
高道昌志（首都大学東京）

協力

法政大学エコ地域デザイン研究センター
法政大学江戸東京研究センター
東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室
中央大学 理工学部都市環境学科 河川・水文研究室
日本大学 理工学部まちづくり工学科 歴史・まちづくり研究室
大日本印刷株式会社ソーシャルイノベーション研究所
新宿区立四谷図書館

【2】 事前説明

実施要項

- 8:30～8:35 開会・挨拶 陣内秀信（法政大学特任教授）
8:35～8:55 浚渫工事の概要説明
8:55～9:00 見学に関する説明・移動

事前説明の様子



[3] 外濠浚渫工事見学

実施要項

■ 実施内容

現在、江戸城外濠に見慣れないパイプが浮かんでいます。これは浚渫（しゅんせつ）工事によるもので、2020年に向けて濠の水質改善のために濠の底にたまったヘドロを除去しています。この工事はどのように行われているのでしょうか。またヘドロは実際にどんなもので、どこに運ばれているのでしょうか。

今回の外濠市民塾では工事を担当している五洋建設にご協力いただき、工事の全体について説明を受け、浚渫の状況を確認した後、浚渫土を送るパイプに沿って積込場所まで歩き、一連の工事を見学しました。

■ 見学工程・ルート

- 9:00 外濠公園（法政大学前）から浚渫状況見学。
- 9:45 外濠公園発 徒歩で圧送管を見学しながら小石川橋へ。
- 11:00 小石川橋から積込状況見学。



1. 外濠公園（法政大学前）から浚渫状況見学。



2. 牛込橋付近

- ① 牛込橋交差点を渡る。
- ② 牛込橋を渡りラムラビル「みやこ橋」から圧送管の見学。
- ③ 見学後、神楽坂交差点まで下り、右折する。



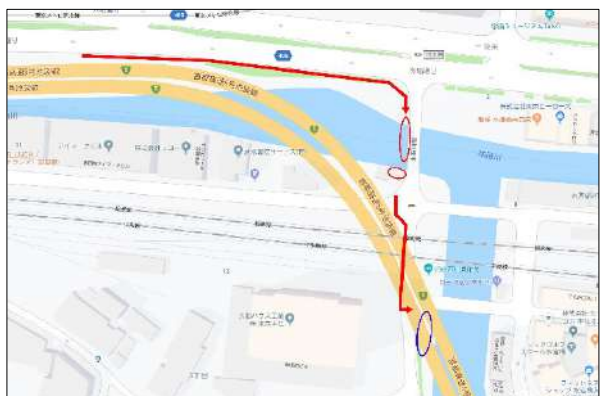
3. 飯田橋交差点付近

- ① 「ひいらぎ橋」から、外濠通り歩道を歩き、飯田橋歩道橋上がる。
- ② 飯田橋歩道橋を歩き、神田川左岸沿いの歩道に下りる。



4. 小石川橋付近

- ① 飯田橋歩道橋から2班に分かれ小石川橋へ。
- ② 小石川橋歩道橋および右岸側の歩道から、土運船積込状況を見学。
- ③ 小石川橋から新三崎橋へ移動。
- ④ 新三崎橋防災船着き場上の歩道上で、バケツに入れた浚渫土を見学。



見学の様子



【4】 質疑・振り返り

質疑・振り返り

● 振り返りワークショップ

- ・ 浚渫工事の感想
 - ・ 外濠に関する気づき
 - ・ 今後外濠をどうしていきたいか
- を中心に各班でワークショップを行った。

■ 1班

実際の見学では魚やカメのような生物が多く見られた。水質は戻ってしまうが、将来的には人が入ることができるぐらいの水質に戻していきたい。

■ 2班

飯田濠の復活を目指していきたい。今回の工事は一時的なものであるから、微生物を用いる水質浄化などを検討してみるのもいいのではない。外濠が汚いということを逆手に取ったマーケティングなども盛り上げるための手段として考えられる。

■ 3班

外濠公園の周辺は数少ない日陰のスポットで、建物群の日陰では感じるできない涼しさがあった。オリンピック後も継続的に活動していくことが重要。将来的には、ホタルなどの生物も呼び込めるぐらいの水質を目指していきたい。同時に外濠周辺の環境も良くする必要がある。

■ 4班

史跡が隠れてしまっており、人々に気づいてもらえない。ここが歴史的な場所であることをより人々にアピールできるようにしていく必要がある。

外濠は今から上から見るという関係で近づけないが、将来的に水質改善と同時に水に近づくための工夫も考えていく必要がある。

振り返りの様子

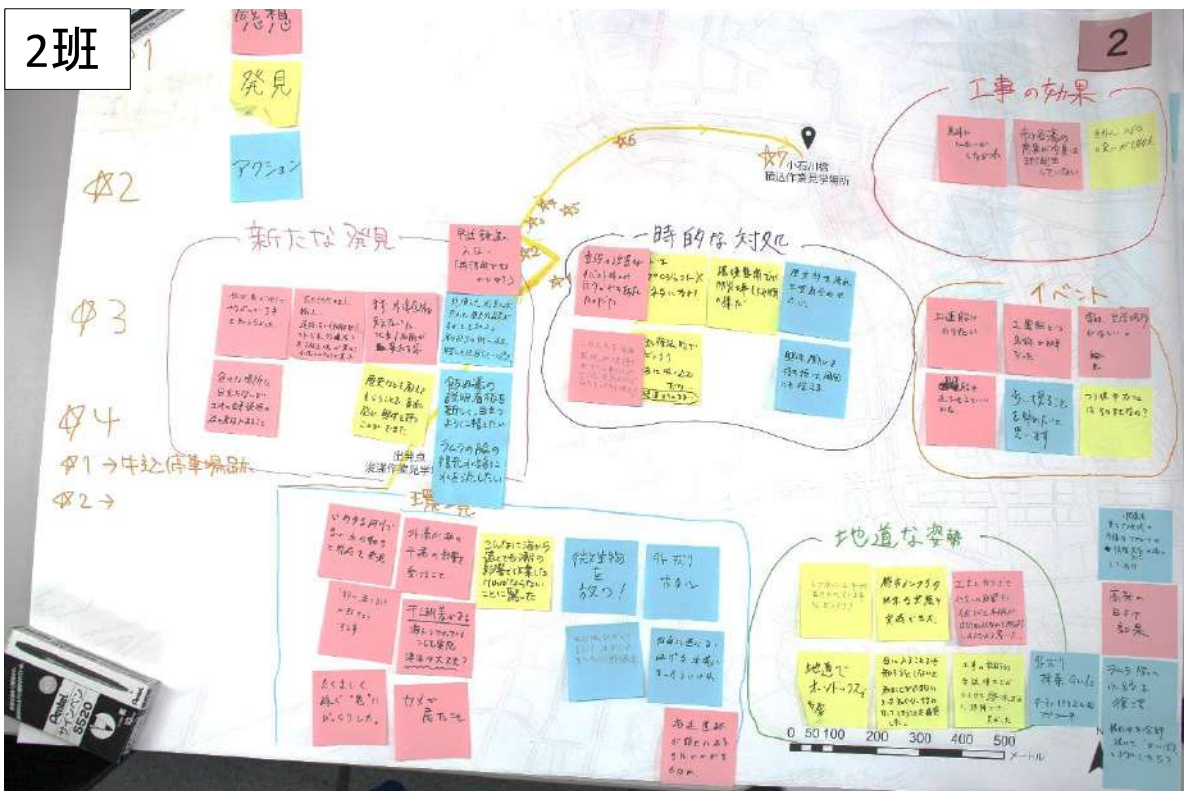


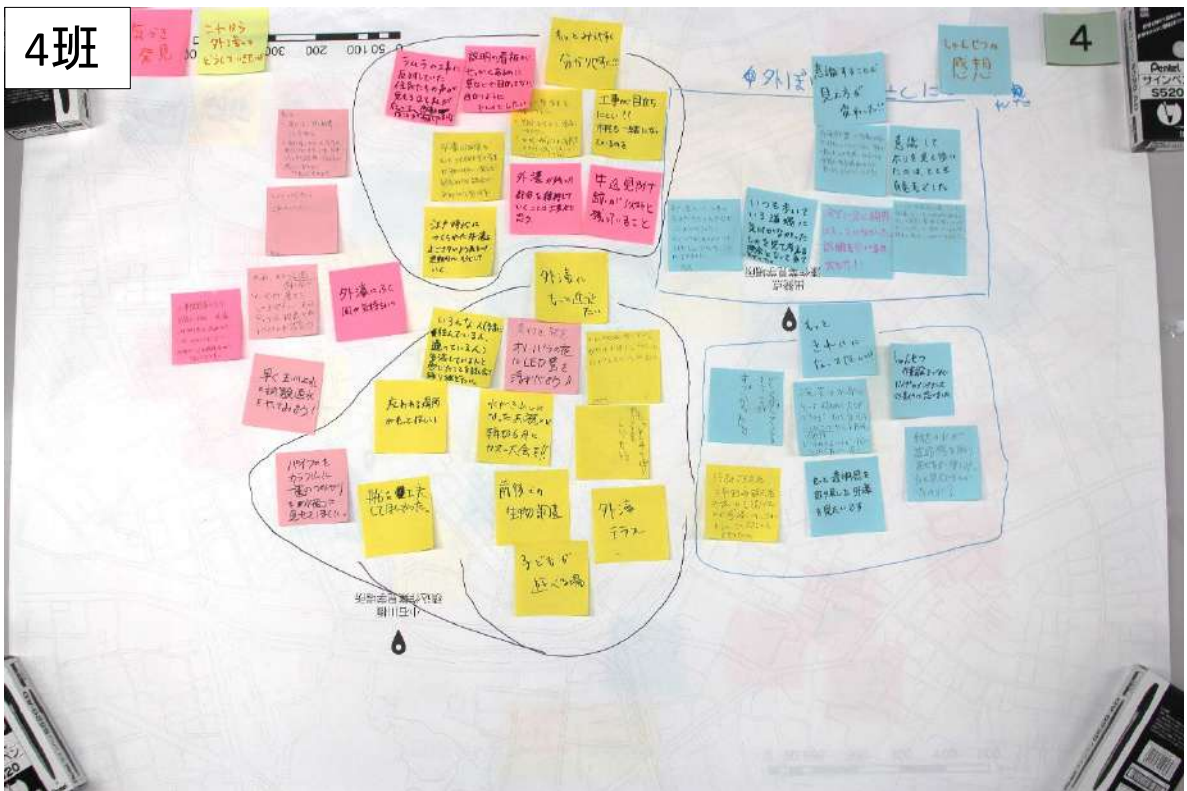
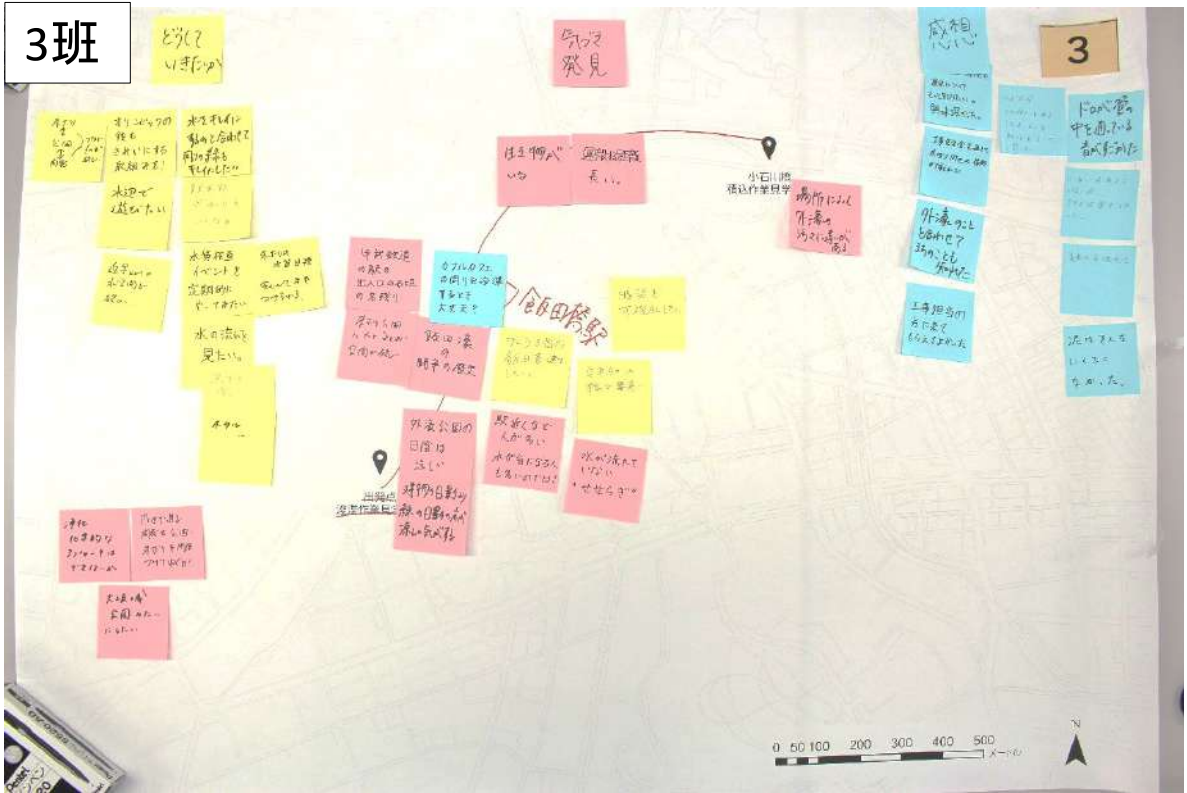
各班のまとめ

1班



2班







■ 吉田珠美（三輪田学園高校校長）

三輪田学園が、市民塾に参加させていただいて3年目です。1期生は大学生になりました。毎年、勉強させていただいたことを文化祭で発表して、多くの人に見ていただいています。高校生のうちから大学の方や地元の方と一緒に身近な環境問題にコミットできることは、彼女たちにとって大きなプラスになっていると思います、ありがたく思っています。今後ともこの活動を続けさせていただければと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

■ 宇野求（東京理科大学教授）

東京理科大学の宇野です。本日は東京都、五洋建設を中心としたJVのみなさま、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。今日のワークショップは、外濠市民塾実行委員会の学生チームがボランティアで準備をしてくれました。外濠VISIONの冊子の中には学生が1年かけて検討作成したイラストがあります。地域のユーザーであり将来を担う若者としての目標を描いたもので、長期的なビジョンを示したものです。これらは、土木・建築・都市計画を専攻する学生達が検討を加えたもので、10年20年かけてでも実現していこうという意思と意図をそなえた提言でもあります。

今日は、とにかく暑い日でしたが、来年の今頃にはオリンピックが行われているわけで、夏の開催が決まった以上、来日される海外の方々にはできるだけいい形で東京にお迎えするのがいいと思います。こうした厳しい暑さの環境のもとで外濠の浚渫をしている方たちがいて、縁の下の力持ちをされている方々のおかげで、私たちは東京で暮らすことができているんだと、今日の見学会で身をもって体験し実感することができました。若者はおもしろいアイデアや発信力もっています。その力を借りるなどして、この浚渫工事そのものをもっと多くの人に知ってもらうために情報発信していくのではないかと思います。

10回を迎えた「外濠市民塾」に加えて、「外濠再生懇談会」という組織が立ち上がっています。千代田区や新宿区にも入っていただいて、「外濠再生」を構想から計画に推進するために各方面に働きかけているところです。こうした地域活動は地道に活動を重ねられてきていて延べで数百人の人が関わり、徐々にではありますが「外濠再生」への関心が広がってきています。そして、いずれはよりよい外濠が再生されることを期待しています。どうもありがとうございました。

【5】 アンケート結果

参加者の声

■ 参加者から36名のアンケートを回収。回答の集計結果は以下のとおりです。

1、今回のプログラムを通じて、外濠について新しく発見したことや見方が変わったことがありましたら、教えてください。

主なご意見

【参加してみて分かったこと】

- 浚渫工事・水質について
 - ・ 工事について分かった。
 - ・ 潮の干満が工事に関係していること。
 - ・ 浚渫が定期的に行われているわけではないこと。
 - ・ 泥のにおいをかいだ。
 - ・ 水質が思ったよりも良い。
 - ・ 外濠の水源や循環システムについて知った、考えた。
 - ・ 濠に段差があること。
 - ・ ラムラの下を水が流れていること。
- 外濠や周辺の歴史・環境について
 - ・ 外濠や周辺地域の歴史、それを示すもの（石垣、埋め立て反対の立札、お地蔵様など）の存在。
 - ・ 生き物（動植物）のすみかとなっていること。
 - ・ 木陰が思いのほか涼しい。
- 普段と違う視点
 - ・ 普段は意外と遠くから見ていて、距離感を感じるがあった。
 - ・ さらに広い視点で見る事が出来た。

【感想・今後について】

- 外濠や周辺の歴史・環境について
 - ・ 外濠や周辺地域のことをもっと多くの人に知ってほしい。
 - ・ 住民や通る人がもっと興味を持てるようにして欲しい（観光なども）。
 - ・ 外濠に設置されている説明版を見やすくしてほしい。

2、外濠市民塾について、ご意見・ご感想をお聞かせください。また、今後実行してほしい企画がありましたら、教えてください。

主なご意見

【意見・感想】

- 感想
 - ・ 現場を見ながらの説明があり、理解しやすかった。
 - ・ 色々な人と歩くのが楽しかった。
 - ・ まち歩きで発見したことをワークショップで共有するのが面白かった。
 - ・ 活動をもっと広めてほしい。
 - ・ 楽しかった。
 - ・ 学生・スタッフへのお礼、応援
- 改善点
 - ・ 少し時間に無駄が多いと思った。
 - ・ 説明がきこえないところが残念だった。

【今後実行してほしい企画】

- まち歩き、セミナー、水上調査など、外濠を知る企画
 - ・ もっと周辺のまちについてなど知りたい。
 - ・ 一周歩く企画。識者のプレゼン+歩きプログラム。
 - ・ きれいになった後にもう一度みんなで歩きたい。
 - ・ 外濠と歴史（江戸時代）について知りたい。
 - ・ 秘境三輪田訪問ツアー
 - ・ 水上調査・見学
 - ・ 水に近づける、身近に感じられる環境づくり
 - ・ 今回のような、身近に行われているが実体がわからないことを知る機会。
- 住民、行政、企業などと連携した企画や整備の検討
 - ・ 具体的に「飯田橋ラムラ」水の流れる公園を実現する方法の検討。都の予算、民間企業の広告収入など
 - ・ 住民に楽しんでもらえる具体策を都、区、町会をこえて考えること。
- 調査・研究成果発表
 - ・ 玉川上水についてクローズアップした企画。外濠への導水を想定して、水質調査や可能最大導水量など。
 - ・ 外濠が都市に果たしている機能（グリーンインフラ、防火、etc.）についてエビデンスも含めて明らかにする。
 - ・ 史跡や外濠の景観のイメージ（写真・CG）（江戸期～未来）をスマホで見られるように。
- その他
 - ・ ヤギプロジェクト
 - ・ 外濠を舞台にした新作落語

3、あなたと外濠について教えて下さい（複数回答可）。

近くに住んでいる	3
近くに住んでいたことがある	1
近くに通勤・通学している	19
近くに通勤・通学していたことがある	6
近くで事業を営んでいる	1
飲食・買い物・遊びなどで付近に来ることがある	3
今まであまり関わりがなかった	3
その他	2
・ 江戸城に興味あり、その関連で出席しました	
・ 法大の一般参加可能のセミナー等に参加の際に、外濠周辺を歩いている。	
無回答	4

4、外濠市民塾への参加は何回目ですか。

1回目	24
2回目	4
3回目以上	3
無回答	5

5、外濠市民塾を何でお知りになりましたか（複数回答可）。

第10回チラシ	2
Facebook	3
市民塾メール	0
ETOSメール	8
「外濠フレンズ」	3
外濠市民塾関係者	13
知人（関係者以外）	3
その他	1
・ツイッター	
無回答	4

6、参加を決められた理由を教えてください（複数回答可）。

外濠に関心がある	23
外濠周辺地域に関心がある	16
浚渫に関心がある	16
その他	0
無回答	5

7、次回以降の外濠市民塾に参加してみたいと思いますか？

ぜひ参加したい	14
予定が合えば参加したい	16
まだ分からない	2
参加しない	0
その他	0
無回答	4

【6】所感

実行委員所感

■首都大学東京都市環境学部 助教 高道昌志

2012年にはじまった外濠市民塾は、今回で10回目の節目を迎えた。ゆっくりとした歩みながら、ひとつひとつの企画を丁寧に重ねることで、着実な成果を得てきたように思う。

今年3月25日に行われたシンポジウム「地域から外濠の再生を考える」で、外濠再生協議会は「外濠憲章」と「外濠四季絵巻」を発表した。今年の外濠市民塾はこれを受けて、そのイメージをひとつひとつ実践しながら、外濠の風景をかたちづくっていくことを目標に掲げていた。今回の見学会も、こうした実践イメージの中から生まれてきた企画である。眼前の外濠をめぐる大きな動きに対して、それを見過ごすことなく、その一員として加わることを目標であった。

江戸時代、大阪の天保山を築いた安治川の浚渫工事は、町人が太鼓やお囃子を出してお祭り騒ぎだったというが、すこし大袈裟に言えば、今回の企画にはこうしたイメージが重ねられるように思う。地域の公共事業を他人事とせず、自分事として反応する反射神経と行動力、7年目の外濠市民塾はそれを実践できるまでに成長を遂げた。

もちろん課題もあるものの、当事者としての意識を持ちながら、地道で着実な前進を今後も続けていきたいと思う。

■日本大学 菊原綾乃

第10回外濠市民塾では、学生が参加者の方々に対して案内を行う役であったため、浚渫に関する理解だけでなく、改めて外濠の周辺地域の理解を深めることができました。WSに参加していただいた方々も浚渫工事だけでなく、外濠周辺の歴史にも関心を示していただけました。

現地見学会後の振り返りでは、外濠の新たな魅力を発見できた方が多い印象を受けました。また、参加者の方々には外濠や浚渫に関する知識量に関わらず、水（外濠）と人が近づけるような環境、外濠をきれいにすることを共通して望んでいたことが印象的でした。大規模に外濠を改善する工事をしてほしい、浚渫工事をもっと広めてほしいなど、工事に関しても意見を述べていただけました。

一方で、今回のWSは市民塾の課題を発見できる機会となりました。この課題を踏まえ、成長過程の市民塾の活動を地域の人々にとって外濠が良くなる方向へ、かつ現実的なものへとできるよう、地域の力を借りながら近づけていきたいと思えます。

■日本大学 江口真由

第10回外濠浚渫見学会では、実際に外濠周辺のまちを歩くことで普段のワークショップでは分からない現状を把握することが出来たと感じています。今回私は、参加者の方に案内や説明をする立場として参加させていただきました。しかし、私自身まだまだ知らないことも多く、地域の方々から外濠周辺のまちの成り立ちや外濠の歴史について教えていただき、まち歩きをしていく中で勉強になることも多くありました。

また、見学会後のワークショップでは、参加者の方々から私では思いつかないようなアイディアを伺うことができ、短い時間ではありましたがとても学びの多い時間を過ごすことが出来ました。私を始め今回の会では、多くの方の外濠に対する理解や関心をより深めるきっかけにできたのではないかと感じています。外濠浚渫見学会をするにあたって至らない点もありましたが、今回のように参加者の方々に助けをいただきながら、今後も外濠に対する関心を広げていきたいです。

■日本大学 寺田希

第10回外濠市民塾では、外濠浚渫工事見学会を行いました。実際に行われている工事を見学することができ、外濠の現状を学ぶ良い機会にできたと感じています。今回、私は案内役として参加させていただきましたが、浚渫の様子を見るのは初めての経験で、参加者の皆さんと楽しみながら浚渫について学ぶことができました。加えて、外濠周辺は私自身の地元でもあります。知らないこともまだまだ多くあり、地元の参加者の方から地域の歴史を教えていただくことも出来ました。このように参加者と学生の交流が活発に行えたことが印象に残っています。また、最後のワークショップでは多くの参加者の方に外濠の浚渫だけではなく、外濠全体をはじめ周辺地域にも関心を持っていただけたことが分かり、嬉しく思いました。今回の会をきっかけに、外濠市民塾の輪がさらに広げられたのではないかと感じています。今後とも、外濠を中心に様々な活動を行ってまいります。

■首都大学東京 増田里奈

浚渫を見学し感じたことや、外濠が今後どうなってほしいかを、みんなで考えました。4班は、小学生のお子さんから大学生、大人の方々まで多様な参加者でした。浚渫工事を見学してみた感想で多かった意見は、「いつも近くを通っているのに、看板などが無いから気が付かなかった」や「浚渫はとても面白いのに、みんなに知られていなくて勿体無い」など、「見えない・見えずらい」という意見でした。それは、外濠に関しても同様の意見が多く、史跡がたくさん残っており、歴史や時間の流れを感じられるもの・ことで溢れているのに、顕在化していないことが勿体無いということでした。それは、「史跡を伝える説明書きが少ない」ことや「外濠に近づく場所が少ない」、「外濠はただ上から眺めるだけで、触れ合うことができないから遠い存在になってしまっている」などの原因が挙げられました。

そうした感想や課題があった一方で、これからに向けた面白いアイデアもたくさん出ました。例えば、「浚渫のパイプをカラフルにして楽しく目を引くようにする」など浚渫に関わることや、「もっと外濠の水に近づく場所をつくる」、「外濠の水がきれいになったらボートに乗りたい」などです。参加者の皆さんは、実際に外堀を歩き、浚渫工事や外濠の水を見て体感したことで、自分事として考え、活発な意見交換ができました。建築や地理、都市史などを専門とする研究者の方も多く、詳しいお話を聞きながらも、互いに意見を尊重し合って、これからの外濠について考えることができたのではないかと思います。